

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立雪谷高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 総務部主任（主幹教諭）＝事務局長
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、総務部主任（主幹教諭）、教務主任（主幹教諭）、生活指導主任（主幹教諭）、進路指導主任（主任教諭）、第一学年主任（主幹教諭）、第二学年主任（主任教諭）、第三学年主任（主幹教諭） 計10名
- (4) 協議委員の構成
地域関係者代表3名、教育関係者代表3名、近隣中学校代表1名、同窓会代表1名、PTA関係者代表1名 計9名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月6日（金）内部委員10名、協議委員8名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和7年11月7日（金）内部委員10名、協議委員9名
前期教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和8年2月10日（火）内部委員10名、協議委員8名
年間教育活動に関する報告、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年11月7日（金）内部委員2名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価の分析・考察、今年度の学校評価の実施に向けた検討今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第2回 令和7年2月10日（火）内部委員2名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理・検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模（実回収数）

12月	全校生徒	対象：826名	回収：805名	回収率：97.5%
12月	保護者全員	対象：826名	回収：611名	回収率：74.0%
12月	教職員	対象：45名	回収：44名	回収率：97.8%
12月	地域	対象：50名	回収：14名	回収率：28.0%
- (3) 主な評価項目
学校経営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全（ライフ・ワーク・バランスを含む）、施設設備などの評価項目を、学校の実態に合わせて適宜設定する。
- (4) 評価結果の概要
アンケートの自由記述欄では「学校行事について」「部活動について」「三者面談について」「定期考査について」などについて特徴的だった。本校の学校行事の在り方の検討や本校ホームページを活用した積極的な情報発信を行っていく必要がある。また、学習指導や進路指導、学校行事の取組について情報発信を工夫して行う必要がある。
- (5) 評価結果の分析・考察
 - ア＜学習指導＞「分かりやすい授業への努力・工夫」の肯定的な回答は、1年生徒91.6%、2年生徒92.5%、3年生徒92.9%、教員は97.7%であった。教員が生徒からのフィードバックを活用したり、部業者による授業評価アンケートの分析について理解を深めたりしたことにより、教員の授業力が向上していると考えられる。
 - イ＜進路指導＞進学に向けた進路指導が充実しているとの回答は、1年生徒94.1%、2年生徒93.2%、3年生徒93.2%であった。保護者は「わからない」という回答を除くと、1年94.2%、2年89.0%、3年82.8であった。学年や教科、進路指導部が連携し、全校的な指導計画を立て、自学自習支援体制の確立を充実させ、希望の進路の実現を目指させたことが、進路実績にも繋がった。大学受験にむけた実践的な講習の質

の向上を組織的に行ったことにより、国公立や難関私立大学への合格につながった。
 ウ<生活指導>学校生活・社会のルールへの遵守、自転車の乗り方のマナーについて1年生徒93.0%、
 2年生徒90.2%、3年生徒87.2%が守っていると回答。自転車安全教室を毎学期末
 に実施したことでマナーの定着が図れている。毎月の拡大生活指導部会に基づき、
 生活指導の共通理解を図った。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 成果

3回とも対面で実施し、教育活動に対して積極的かつ建設的な提案・意見が得られた。学校
 評価アンケート結果からは、多くの項目で高い水準を維持していることがわかる。

(2) 課題と改善事項

ア<学習指導>「分かりやすい授業」について、教職員は「そう思う」の回答が45名中27
 名の60.0%であったが、生徒は「そう思う」の回答が1年33.3%、2年35.3%、
 3年34.2%であった。Forms等を利用した授業の振り返りの生徒の回答から、授業
 改善を継続していくことが課題である。

イ<進路指導>生徒の学力向上のための積極的な取組についての生徒の肯定的な回答は、1年
 93.8%、2年91.7%、3年95.1%である。進路情報の提供や学習習慣の重要性の
 指導を常に行い、模試の過去問題の課題を与えたり、模試の結果を分析したりす
 ることにより、進学実績の向上につなげることが課題である。

ウ<広報活動>学校ホームページ委員会を中心に、学校の教育活動について本校ホームペー
 ジやX(旧Twitter)で発信している。また、説明会での部活動紹介や応援
 パフォーマンス、中学校への出前授業を実施している。令和6年度入学者選抜か
 ら男女合同選抜が実施されているが、応募倍率は高い水準を維持している。

エ<伸ばしたい特色>学校評価アンケートの保護者の自由記述で「三者面談の回数が少ない」
 が複数見受けられた。3年間の進路活動の計画と実行を図る上で、三者面談を含
 めた適切な進路指導を行うことが課題である。学校行事や部活動を通して、母校
 愛の育成に向けた取組は充実している。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

生徒への小論文指導や特別支援教育、通級による指導などについて、教員向け校内研修によ
 り理解を深め、教員の指導力向上と生徒理解を図る。生徒への長期休業中や週末の課題の量の
 調整や朝学習を活用した自学自習の習慣化に向けて学校全体で組織的に取り組む。また、学校
 行事や部活動、キャリア教育など保護者や同窓会、地域との連携を深め、充実した教育活動を
 実践する。

(2) 学習活動

小テストや朝学習、定期考査についてリアテンドを活用して学力分析を行うことで、生
 徒の実態に即した年間授業計画を策定している。各教科で模擬試験等の本校教員による分析に
 基づいた指導、ICTの更なる活用等による授業改善を実践していく。また、放課後の時間を
 活用し、自習室の活用や、外部機関との連携により、計画的な補習補講体制を構築し、自学自
 習の習慣を定着させる。

(3) 特別活動(学校行事・部活動)

文武両立の実現に向けて、学校行事や部活動などを通じた生徒が主体となる取組を充実させ
 ていく。また、達成感や成就感を得させ、協調性と母校愛を育成する指導を継続する。

(4) 生活指導

「生活指導統一基準」に基づいた規範意識の向上とルールを自主的に守る態度やマナーを徹
 底し、教育理念である「社会に貢献できる人の育成」を目指す。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員(外部委員)の割合(100%)

(1) 協議委員人数 9名

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わな い	分からない	無回答
3	3	3	0	0	0	0

(2) 「学校がよくなった」と肯定的に回答した協議委員の人数 6名

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人 【成果】実績なし

8 その他

教職員・生徒・保護者のアンケートはMicrosoft 365のFormsによる回答を行っている。保護
 者はゲスト接続のため未提出者を特定できないことに加え、複数回の回答を避けられないため、
 対策を検討する必要がある。